

第56回 NHK 杯全国高校放送コンテスト  
千葉県大会 番組部門  
あらすじ集



めで. CO

# 校内放送研究発表部門

やってみよう ばそこんでんしけいじぼん  
やってみよう！PC 電子掲示板

千葉県立柏の葉高等学校

## 《制作意図》

性能の劣った古いパソコンとフリーソフトを使うだけで簡単に作ることもできる電子掲示板について発表します。

昼の放送での番組や、制作した作品などを校内で発表するなどアイデアにより用途は様々に広がっていきます。

ぜひこの機会に1つの発表の場として簡単にできるこの電子掲示板を利用してみてはいかがでしょうか？



### STEP1 パソコンの用意

- 不要なパソコン2台以上。
- 1台は、親パソコン。

### STEP2 親パソコンの設定

- ・親パソコンは 一日中起動する。
- ・放送を開始する時刻に再起動する。
- ・子パソコンに命令を出す。

### STEP2 親パソコンの設定

- 再起動のためのバッチファイルを作る  
拡張子[~.bat]
- タスクに登録する  
スケジュール

### STEP3 子パソコンを起動する

- ・「Wake On LAN (wol)」を  
ダウンロード
- ・バッチファイルを作成
- ・スタートアップに登録

### STEP4 子パソコンの設定

- 親パソコンから  
放送するファイルを読み込む。

# ラジオドキュメント部門

へいわへのねがい、たなばたのそらへ  
平和への願い、七夕の空へ

千葉県立検見川高等学校

## 《制作意図》

昨年秋に別の取材で千葉空襲の話聞き、本校の生徒の千葉空襲についての知識を調査したところ、ほとんどが「知らない」と答えたので、身近な地域で起こったことを知ってほしいという思いで制作しました。

制作していく中で、取材対象の方が、次から次へと「あの人にも聞いてみる」と紹介してくださいました。体験者の「語り継いでいきたい」という思いで、この番組ができました。

わたしはギャグをいいたい  
私はギャグをいいたい

千葉県立船橋高等学校

## 《制作意図》

私達の学校では授業中にギャグを言う先生が多数いらっしゃいます。

「ここらへんが4番だね。第四だよーん」、「この問題があっさりあさりバター」、「今日は京都」などのギャグです。しかし、生徒の反応はいまひとつ。

みんなあきれかけているように見えます。そこまでしてなぜ先生方は授業中にギャグをいうの难道かと不思議になり、この番組を作成しました。

みらいへのふせき いごにけるおもい  
未来への布石～囲碁に懸ける想い～

流通経済大付属柏高等学校

## 《制作意図》

飛田早紀さんは、プロの囲碁棋士を目指す高校三年生。彼女は、普段私たちが過ごしていてもあまり関わる事のないプロの世界に足を踏み入れようと、対戦相手だけでなく自分自身とも常に戦っている。ひたむきに囲碁と向き合う彼女の姿を通して、一生懸命がんばることの難しさや大切さ、夢を追いかける素晴らしさを伝えたい。

みりょくのあるまちづくり  
魅力のある街づくり

千葉県立鎌ヶ谷高等学校

## 《制作意図》

私たちの利用している東武野田線の二つの駅で、発車メロディが「ファイターズ讃歌」に変わりました。これは鎌ヶ谷市の地域活性化プロジェクトとしておこなわれました。鎌ヶ谷市内に、北海道日本ハムファイターズの二軍球場があることを利用した取り組みです。鎌ヶ谷市役所は市民と企業の協力を得て、魅力のある街にすることを目標に様々なことに取りくんでいます。このことを伝えるため、この作品を制作しました。

きょうみしんしん  
興味心身

千葉県立小金高等学校

#### 《制作意図》

私達は、男子高校生達が女性のヌード写真に興味があったり、日常で女子のスカートの  
中を気にしてしまっていることに注目しました。初めは性欲に対してマイナスの印象を持  
っていましたが、取材を重ねるごとに、それが男女、年齢関係なくある感情で、自然なこ  
となのだと気づきました。

性欲とは何のためになるのかといことも再確認することで、性について前向きに考えて  
いければ良いなと思い制作しました。

がっこうでじぶんさがし  
学校で自分探し！？

東海大学付属浦安高等学校

#### 《制作意図》

最近の生徒は学校に通う意味を見失っていると思います。目的を持っている生徒でも、  
友達や部活で、自分のためではないという人がほとんどです。  
学校は大切なものや自分を探せる場所だと思います。自分を見つけられない人や学校が好  
きではない人に学校に通う意味を知ってもらおうと思ったので、私たちは番組を作り始め  
ました。

## テレビドキュメント部門

かるがるかるちゃー  
軽々カルチャー

千葉県立小金高等学校

#### 《制作意図》

私たち小金高校の女子生徒は、平均よりもすごくやせています。けれど、それでも”や  
せたい”と感じている人がたくさんいます。

私たち小金高校放送局は、そんな女子生徒たちが”やせたい”という気持ちになるのはど  
うしてだろうと思いました。

そんな疑問から、この作品を制作することになりました。

こうしこんどう  
公私混道！？

流通経済大付属柏高等学校

#### 《制作意図》

私たちの通学手段として必要不可欠な自転車。しかし、私たちは正しく自転車に乗れて  
いるわけではありません。軽車両として道路交通法でも定められており、法規を遵守しな  
ければなりません。本校では、今年度から雨天時の傘差し運転での通学を全面禁止し、合  
羽の着用を義務づけました。これをきっかけに、本来の自転車の乗り方や問題点について  
考察し、問題提起の意味をこめて、この作品を制作しました。

ゆめにまっすぐ ちちからのことば  
夢にまっすぐ～父からの言葉～

成田高等学校

《制作意図》

私には漫画家になりたいという将来の夢があります。しかし、もしもなれなかったらという不安もあります。その時は夢を諦めてしまおうとも考えていました。そこで私の様に、夢の実現や就職に対して不安を抱く高校生の、不安に応えたいと思いました。私の父は訳有って二種の職業を持っています。そんな父の姿を追えば、これからの人生をどの様に歩むべきなのかが解るだろうと思い、このドキュメントを制作しました。

そうじはだいじ  
掃除は大事？

東海大学付属浦安高等学校

《制作意図》

私たちの学校には、放課後に掃除の時間があります。しかし、ちゃんと掃除をしているはずなのに、教室はとても汚い！アンケートをとってみるとちゃんと掃除をしている人としていない人の数はほとんど同じでした。また、生徒インタビューで先生によって生徒の掃除に対する意識も変わることがわかりました。私たちはこの番組を通して、みんなで掃除をすることの大切さ、教室を掃除することの意味を伝えていきたいと思います。

やさしいしゃしん  
優しい写真

千葉県立船橋高等学校

《制作意図》

船橋高校には定時制の課程があります。そこで活躍している写真部の部長が、ブラジル人の森田ジュリオトミオさんです。ジュリオさんは様々な大会で好成績を修めています。また、彼の写真には優しさがあります。

彼の写真の優しさはどこから来ているのか、彼の写真が持つ力とはどのようなものか。ジュリオさんとその周りの方々取材することで見えてきたものをより多くの人に伝えたいと思い、この番組を制作しました。

きょうてき  
強敵

市原中央高等学校

《制作意図》

私たちの通っている学校は杉林に囲まれています。そのせいで、花粉が飛ぶ時期になると多くの生徒や先生が花粉症に悩まされます。そこで私たちは、花粉症に悩む一人の少年と彼の“強敵”花粉との戦いを番組にしました。様々な花粉症対策を少年に実践してもらい、改善するかどうかの実験をしました。

《制作意図》

幕張総合高校ボクシング部、部員2人の小さな部です。2年前選手がいなくなり、存続の危機に陥ったボクシング部を救ったのは「ボクシング部をつなげたい」という思いを持った女子マネージャーでした。翌年、待望の選手が入部します。しかしその後も順調に進んだわけではありません。様々な危機を乗り越えて、何とか2年ぶりの公式戦にこぎ着けたボクシング部取材しました。

きれいながっこうがすきだから  
きれいな学校が好きだから

千葉県立検見川高等学校

《制作意図》

ゴミの焼却場に、私たちが通う学校から出されるゴミは、分別ができていないと注意を受けた話を用務員の鬼頭さんから聞きました。

注意を受けた後、分別が強化されて分別状況は改善されましたが、今度はゴミの量の多さが問題になりました。

そこで私たちは、生徒にゴミを減らすことの大切さを訴える目的で制作しました。

なぞのぶったいえっくす  
謎の物体 X

千葉県立千葉西高等学校

《制作意図》

私達の学校の屋上には、コンクリートで出来た不思議な円形の物体があります。普段、立ち入り禁止の屋上でただ立っているこの物体を知っている人は、ほとんどいません。

私達は、この謎の円形物体に興味を持ちました。一体なんのために作られたのか、どんな必要性があるのか疑問を持ち、この謎を解明すべく「X」という名前をつけ、調査していきました。

かまこうすたいる  
鎌高スタイル

千葉県立鎌ヶ谷高等学校

《制作意図》

世間的に今、制服のスカートが短い傾向にあり、鎌高生も短いです。先生たちは、それを改善するために呼びかけを行うなどして動き始めていますが、先生と生徒には意識の違いがみられます。

なぜスカートを短くするのか取材を続けていくうちに、高校生が日頃から流行や周囲の影響を受けていることがわかりました。

この作品を見て女子高生が少しでも制服のスカートの長さについて考えてほしいと思い、この作品を作りました。

# 創作ラジオドラマ部門

れいぎのかべ  
礼儀の壁

市原中央高等学校

## 《制作意図》

最近、私の祖母がよく「最近の若者は礼儀がなくなっている。」などとよく言うようになりました。

そこでそのような人々にこの作品を通して礼儀の大切さを知ってもらい、少しでも将来の役にたつようなきっかけになればと思ってこの作品を制作しました。

## 《あらすじ》

ある日のこと、ごく普通の高校に通う一人の高校生、松平政志は先輩である裕太に言われた愚痴に賛同したら揚げ足を取られてしまった。短気な政志は罵声を放ちながらその場を出て行ってしまふ。

その後、あまり晴れない気持ちのまま学校をさまよっていると幼なじみの瑞希に出会う。瑞希だったら自分をかばってくれるなどと小さい期待を膨らませながら先ほど先輩に言われたことを言うと、なんと思っていたこととは正反対のことを言われてしまふ。裏切られた気持ちでいっぱいになった政志はその場から逃げ出してしまう。

家に帰った政志は母親が帰っているかどうか問うために姉の小雪に政志は聞いて、帰ってきた返答に自分勝手な態度を示すと小雪に怒られてしまふ、逆ギレして部屋から出て行ってしまふ。もうみんなに何も言われたくないと思った政志は、今までいわれてきた「礼儀」の改善を決意する。

こがししょうゆのかおり  
焦がし醤油のかほり

東海大学付属浦安高等学校

## 《制作意図》

最近若者の間では、スイーツ、ファーストフード、スナック菓子など、お煎餅よりも流行りなマンゴー味のクッキーなどの洋菓子のほうがとても人気で、お煎餅を食べている人が少なくなっていて、お煎餅を食べなくなっていると思ひ、昔から日本に伝わるお煎餅の良さを伝えようと思ひました。また、現代の若者たちは、人の意見や気持ちを素直に受け止めることができな思ひるので、その大切さを伝えるために制作しました。

## 《あらすじ》

煎餅屋の一人息子洋介は、自分の家が煎餅屋だということに対して、コンプレックスを抱いていました。「煎餅なんて今どき流行らないんだよ。店なんて潰れちまえばいいんだ！」そう呟いた瞬間、煙とともにワガシンが現れました。「見損なつたぞ。わが子孫。身をもつて反省しろ！」なんと洋介は煎餅の姿に変えられてしまつたのです。

日が暮れるまでに千枚煎餅を売らなければ、一生煎餅のまま。洋介は幼馴染のアキコと一緒に煎餅を売りに行きます。煎餅に姿を変えられてから洋介はお父さんやお母さんの思ひを知り、変わっていきます。「よし。頑張つて売ろぞ！」気持ちを改め、洋介とアキコは大通りで売ろうとしますが、洋菓子の魅力には敵わず、なかなか売れません。そして、ついに約束の時間になってしまひました。「元の姿に戻つて、店を継ぎたかつた！」洋介の思ひはワガシンに伝わり、洋介は最後の課題を経て、元の姿に戻ることができたのです。

《制作意図》

私たちは何か行動を起こしたり誰かに気持ちを伝えようとした時、周りの目などを気にして、消極的になりがちである。しかし、思っているだけでは自分の気持ちは相手に伝わらず、物事は何も変化しない。大切なことは、まず勇気を出して行動してみることはないか。そのようなことを伝えるため、この作品を制作した。

《あらすじ》

周りの目が気になってなかなか自分から行動できない主人公のエミは、友人の裕子に連れられ、不思議なアンティークショップに入店する。そこで、人の心の声が聞けるイヤホンを手に入れる。イヤホンの力を使い人助けをするエミだが、自分が想いを寄せている鈴木、自分を嫌っているような心の声をきいてしまう。その後鈴木が怪我をしているのを目撃し、葛藤しながらも裕子の言葉を思い出しイヤホンを使わずに鈴木を助けることに成功する。そして、自分の力で鈴木に告白し、「大切なことは、まず一歩を踏み出すことなのだ」と思ったエミは、自らの手でイヤホンを返品しに行くのだった。

《制作意図》

私達は普通に毎日を過ごしている。  
そしてその中で、何か特別なこと、普通じゃないことを求めることもある。  
しかし一方で、普通じゃないこと、奇異なものを嫌ってもある。  
では「普通」とは何なのか。  
外国等、自分の暮らす場所から一歩出れば通用しなくなることの多い「普通」というもの。  
私は当たり前のように使われる「普通」という常識に疑問を感じ、それが通用しない世界を描いてみようと思い、この番組を制作した。

《あらすじ》

隆は普段から当たり前の日常を愛し、普通がいいと思っている。  
一方友達の子は、いつも何か変わったことを求めている。

そんなある日、隆が目覚めると突然世界が変わっていた。昼夜が逆転していたり、女子の制服も学ランだったり、隆の「普通」が通用しないのである。しかし周りの人々はそれを普通だと思っていた。

何が普通なのか混乱した隆は、職員室に呼ばれ、入室の仕方を友に訊くが、友はふざけて、隆の元居た世界ではあり得ないことを言う。隆はそれを「普通」だと信じ、実行する。しかしそれはこの世界でも「普通」ではないことだった。

元々普通がいいと考えていた隆は、普通じゃない一日に疲れ、益々その思いを強くする。しかし五年後、未だ世界は変わったままで、「普通」がわからない隆は、「普通」ではないことを表現する、小説家になってテレビに出てしまっているのがあった。



### 《制作意図》

「自分はいったい何のために勉強しているんだろう。何がやりたいんだろう。」

誰もが少なくとも一度はこのような疑問を抱いたことがあると思う。特に今後の進路について考えているときなどに。やりたいことや、はっきりとした目標がないと不安になる。そのような高校生特有の心境を主人公を通して描き出し、制作する上でのテーマとした。サブテーマとして、意思の尊重の大切さを伝えようとした。

### 《あらすじ》

主人公の芽衣は高校三年生。ホームルーム中に行ったアンケートについて、綾芳や佑太と話をしていた。2人とも本格的に受験勉強をしていると聞き、芽衣は焦りを感じる。

志望校を書かずにアンケートを提出した。志望校が決まっていない芽衣に先生は有名な大学ばかり勧めてくる。

とにかく志望校を決めようと決心した芽衣が、学校で配られたパンフレットに目を通した。「大学展覧会」というイベントを見つけ、参加することにした。

そこで志望校の情報を手に入れるために来ていた佑太と出会う。志望校が決まっていないことに対し、佑太は厳しく批判。芽衣は我慢できずに心の中をぶちまけた。佑太の言葉を聴き、自分を見つめなおし、やりたいことを探し始めた。

そして興味のあることを見つけた芽衣。先生の反対を押し切り、自分の学びたいことを学ぶ道を選んだのであった。

### 《制作意図》

この作品は、「楽しむこと」の大切さをテーマに制作しました。私たちは毎日の学校生活を楽んでいます。しかし、楽しむことを忘れてしまった時に、果たしていつも通りの生活を送っていくことができるでしょうか。この作品を通して、「楽しむこと」の大切さを再確認してもらえたらいいと思います。

作品の中で悩んだ部分は、構成です。起承転結をどのように表現していくのかとても悩みました。

### 《あらすじ》

軽音楽部顧問を務める秋は、練習をしている生徒、夏美と冬馬に声をかける。落ち込んでいる二人を昔の自分に重ねた秋は、自分の高校時代のことを話し始める。放送コンテストで楽しそうにアナウンスをしていた先輩、春樹に憧れて放送部に入部する秋。

春樹が卒業し、最後の大会前に練習に集中できない秋は、練習を見に来てくれていた春樹にどうしたらうまくなれるかを相談する。

秋は「楽しんで読む」というアドバイスを受け、入った理由を思い出す。

次の日、練習に来ない春樹を心配していた秋は、春樹が事故にあったことを知らさる。

大会の日、春樹のことが気になり、練習に集中できない秋。

そんな秋に話しかける男、それは事故にあった春樹だった。秋が話し終え、練習を始める二人を見ながら秋はつぶやく。

「今日も楽しんでいきますか」

# 創作テレビドラマ部門

ぶれぜんと  
Present

千葉県立船橋高等学校

## 《制作意図》

誰でも一度は未来に不安を抱いたことがあるのではないだろうか。それは受験だったり何かの大会だったり様々だと思う。だが、どれ程未来のことを心配しても、今日の前には「今」しかない。誰かと比べて不安になったり、時間が無いと焦ったりしても、今出来ることをするしかない。未来のためにも、今を充実させるためにも、今、この時に、今出来ることに全力で向かっていくことが大切なのではないかと思い、この番組を制作した。

## 《あらすじ》

受験生の劉は、今を楽しむことが大事だと考え、未来に向かって何かすること、受験勉強や所属する軽音部のライブの準備にも真剣になれないでいた。そんな劉を、クラスメイトのもみじは心配し、同じ軽音部の友里は半ば呆れたように見ていた。

ある日劉はもみじの英単語帳で、プレゼントが今という意味を持つことを知り、折角のプレゼントなんだから楽しまなくちゃ、と今までの考えを強くする。

そんな時、任されていた、ライブの曲の作詞を降ろされてしまう。そしてその直後、もみじからプレゼントの原義を聞かされる。それは「目の前にあるもの」だった。

二人の話聞いた劉は、今までの考えは自分への言い訳だったと気づき、目の前にある今、作詞や受験勉強にきちんと向き合っていくことを決意する。

たらい  
盟

千葉県立長生高等学校

## 《制作意図》

人間は頭を使うこと、とりわけ不思議に思っていたことが分かるときに最大の幸福を感じる。しかしその過程では必ずしも、一人でのみ解決していくことはない。それまでは比較的仲の悪かった者たちでも同一の目的に対して融知し、活動していく。

そんな姿を視聴者に、ミステリーを通じて伝えるべく、我々はこの作品を制作した。

## 《あらすじ》

ちょっとした探し物から果ては人生相談までも、生徒達から受ける「探偵部」。新設されて間もないこの部活にも再編の危機が迫っていた。部の創設者である初代部長は引退し、後輩達にその座を譲っていた。しかし残された部員ら三人は仲が悪く、探偵部も事実上の活動停止に見舞われていた。そんな中、生徒の一人が学校にまつわる盟伝説を調査して欲しいと探偵部に依頼をする。そこで、部室に飾られている伝説の盟を手にとると秘密の暗号が書かれているのであった。暗号を解く上で協力をしたいが自分からはそれをなかなか言えず、葛藤する。ついに女子部員の側から言い出してもきっぱり断られてしまう。しかし、ふとしたひらめきから探偵部は協力することに。団結してからの行動は早かった。瞬く間に降りかかる手がかりから謎を解明していく部員達。ミステリーの終着は意外なところに隠されていた。そして、彼らが得た物は、「友情」なのであった。

《制作意図》

皆さんは様々な「あいてない」という状況に陥ったことがあると思います。トイレがあいてない、席があいてない…など。私達はそんな「あいてない」ことに注目してこのドラマを作成しました。もしトイレがあいてなかったとき、もし席があいてなかったとき、あなたならどうしますか。このドラマには、いろいろな「あいてない」が出てきます。最後までどういう「あいてない」が出てくるか、楽しみながら見ていただくと幸いです。

《あらすじ》

みなさんあいてないことってありますか？ある日、色々なものがあかなくなってしまった少年タカオは、とうとうトイレまであかなくなってしまった。心配になった友達のユウキは、タカオのもう一人の友達、ババに相談を持ち掛けることにした。そこで二人はトイレすらあかず、困り果て叫ぶタカオの危機を知り助けに向かった。廊下を走るユウキが見たものは、色々なものがあかなくなっていまい困っている生徒達の姿だった。さらにタカオの元へ走るユウキの前に立ちはだかる風紀委員。ユウキは風紀委員を打ち破り、タカオの元へ辿り着く。そして二人でトイレに向かい、ドアをあけることに成功する。一人では出来なくても相手がいれば何でもできる。ユウキが来たことで、タカオには「あいて（相手）いる」のだ。

り きみにとどける声

Re：君に届ける声

成田高等学校

《制作意図》

現代を生きる私たちに、携帯のない生活など考えられないでしょう。他愛もない会話から遊びの約束、部活のちょっとした連絡など、様々な場面でメールを使うことが多いと思います。しかしそれだけに留まらず、好きな人に告白するときや謝罪の弁を述べる時など、大事なことで携帯に頼っていませんか。本当に伝えたいことは自分の口で言わなければ伝わらないのです。

《あらすじ》

主人公の白戸彩(しらとあや)は、どんな時でも携帯電話が手離せない女の子。朝起きてすぐ、授業中、デート中と、いつでもケータイをいじっている。ある朝、親友のリコがケンイチに告白しようと思っていることを本人から知らされ、メールでの告白を勧める彩。しかし当のリコは直接告白することを選ぶ。なぜ楽な方(メール)を選ばないのか不思議に思っていた矢先、彼氏の潤から「俺とケータイ、どっちの方が大事なの？」と責められ、すぐに答えられなかった彩。後日、メールで謝るが「メールで言い訳なんか聞きたくない」と一蹴されてしまう。

どうすれば許してもらえるのかわからないでいたが、告白に成功していたリコにヒントをもらい、「大切なことは面とむかって言わなければ伝わらないんだ」ということに気づく。いてもたってもいられなくなった彩はすぐに潤のところへ行って直接謝り、見事仲直りを果たす。

《制作意図》

「笑顔」というものは、ありふれているものです。誰もが持っている笑顔でも、本当はとても大切なものだと思っています。失くしてはいけない「笑顔」を失くしてしまったら、一人では取り戻すことはできないのではないかと考えました。友達がいて、また取り戻せると思うのです。友達がいるから、笑顔になれる。そうゆうものでしょう。誰もが友達、笑顔、心から笑うということの大切さを見直せるものを作りたいと思いました。

《あらすじ》

主人公の村上真（むらかみまこと）は、女子高生の会話に楽しみを見出せずくだらないと思っている。そんなある日、真のクラスに元気で明るい女の子、岡田陽（おかだはる）が三ヶ月という期限付きで転校してくる。真の隣の席となった陽は、真に「クロ」とあだ名をつけ、一方的に仲良くなろうとする。初めはつきまとう陽をうっとうしく感じていた真だったが、陽の明るさにうごかされ次第に心を開いていく。しかし笑顔を見せない真に対し、陽は転校する前日、真に笑ってほしいと告げ、「明日朝一に転校」と書かれたメモを渡す。翌朝、教室に入った真は、「ハル」という形に並べられた机と手紙を見つける。

その手紙を読んだ真は思わず苦笑する。そこにいるはずのない陽がやって来る。完全に打ち解けあった二人はともに教室を後にする。

その後、会話する真には、陽が転校してくる前にはなかった笑顔があった。